

中露はなぜ政治的に接近するのか？

漢和防務評論 20140220（抄訳）

阿部信行

（訳者コメント）

漢和 2 月号に中露接近の背景に関する記事がありましたので紹介します。
ウクライナ情勢を巡り米露の確執が激しくなっていますが、ロシアは一人でも味方が欲しいので中国を引き込もうとするはずで
中国は旧ソ連空母の修復や艦載機パイロットの訓練、大型船舶、航空機エンジンの開発等でウクライナ技術者の支援を受けているのでどのような立場を採るか興味があります。
むかし中ソ対立の時代、旧ソ連は日本を味方にしようとして中国に対し台湾の日本への割譲をほのめかしたこともあります。その時中国は北方領土は日本のものだと宣言しました。

KDR 平可夫記事：

中露は如何なる理由で再び軍事的に接近しようとするのか？クレムリンは何を考えているのか？この問題は、以前から外部世界の関心の的であった。

KDR は、クレムリンに近いロシア政界の消息筋取材した。

KDR の“ロシア軍事工業界の多くの指導者達は高性能武器の対中輸出に明らかに反対しているが、クレムリンはなぜこのような決定を行ったのか？”との質問に、消息筋は、“我が家のボス（注：プーチン大統領を指す）は中露関係を極めて重視している。第一、中国は巨大な隣国であり、我々は中国の政治、軍事、経済市場を放棄することはできない。これが基本認識である。プーチンの認識は次のとおり。過去 12 年間、中露の政治的関係は安定しており、起伏がなかった。プーチンはこの点を重視している。一方の米露関係、欧露関係は総じて起伏が激しく、問題が頻繁に発生している。米国はロシアに対し力を誇示し過ぎた。我々は、今後も米露関係は安定しないと見ている。時代によって外部政治環境が悪化するのはいずれも望まない”と述べた。

言い換えれば、ロシアが高度に重視するのは隣国との政治的関係、全局の長期的安定性であり、この点で中国は評価が高い。

また消息筋は、“第二に、プーチンと習近平は極めて良好な個人的信頼関係を築いた。この点が重要である。習近平は何度もプーチンと会ってプーチンに好印象を与えた。習近平はロシアを理解しているようだ”と述べた。

消息筋の上述の談話は、KDR の予想を裏付けた。すなわち習近平を首領とするこの世代の太子党グループは、何もしなかった胡錦濤に比べロシア文化を好む。なぜなら 1950 年代に生まれた紅色第二代は、親ソ環境下で成長したからだ。正に習近平の父、習仲勳は、1950 年代、党中央宣伝部長の職にあった。その上、習近平の夫人彭麗媛は声楽家であり、習近平の親露傾向に影響を与えた可能性が高い。中国の音楽は、ロシア派 (RUSSIAN SCHOOL) の色彩が濃い。夫人は、最近ロシアの音楽祭、音楽会にしばしば参加しており、上述の判断を裏付けている。また消息筋は、数回行われた中露首脳会談においてロシア側は武器コピー問題を中国側に抗議しなかったことを認めた。

以上